

(4) 工事における社会的コストの低減

IV①工事におけるリサイクルの推進

他産業廃棄物（キラ）を活用した地下空洞充填工事を実施

平成12年度東海環状可児亜炭坑充填工事

平成12年度東海環状御嵩亜炭坑充填工事

【施策の概要】

東海環状自動車道は名古屋市を中心とし30~40kmに位置する諸都市を環状に結ぶ総延長約170kmに及ぶ自動車専用道路である。また、21号可児御嵩バイパスは現道における交通環境の改善と東海環状自動車道のアクセス道路を目的とし計画されている。

両道路が通過する岐阜県可児市及び御嵩町においては第二次大戦中前後をピークとし、燃料として多用された亜炭が採掘され、採掘後の坑道は地表面の数メートルから100メートル以上の深さ迄に高さ1~2メートル程度の空洞を形成しており、空洞内の殆どにおいては地下水が充満している。

本工事は東海環状自動車道と21号可児御嵩バイパスとのインター部分の施工に先立ち、現存する亜炭坑跡の充填を行うものである。

【施策のポイント】

施工にあたり、T C (Technical Cooperator : 技術協力者) 委員会により充填工法の検討を行い、地場産業である窯業用の陶土や珪砂の採掘現場から発生する廃汚泥（キラ）を利用した充填工法を開発した。

本工事においては、細骨材として廃汚泥（キラ V=28,870m³）が利用され、2.1%の建設コストの低減が図られた。

【イメージ図】

位置図



工法概要

